

最小土被り厚

- 1) 補強土壁の上部には、表1に示す H_1 以上の高さの上載盛土を施すものとする。
このとき H_1 は、スキンエレメントの上端より盛土の仕上げ面または路面までの高さとする。

表 1 最小土被り厚

	コンクリートスキン	メタルスキン
標準値	$H_1 = 30\text{cm}$	$H_1 = 60\text{cm}$
最小値	$H_1 = 0\text{cm}$	$H_1 = 30\text{cm}$

- 2) 摩擦力 S は、基本的には $S = V \cdot \tan \phi = V \cdot f$ (ここに V :鉛直力, f :摩擦係数)であるから、摩擦効果を期待するには、ストリップの上面に必ずある一定以上の土などの重量、すなわち土被り厚が必要となる。

実験によると、土被り厚があまり小さい場合には、所定の摩擦抵抗が得られない場合があるため、表1に示す最小土被り厚を規定したものである。特に、メタルスキンの場合は、構造上、補強土壁の壁高の上端にストリップが配置されるので、これを安定に定着させるため、少なくとも ΔH と同等程度以上の土被り厚が必要である。

表1の中で最小値は、補強土壁の上面が舗装され、また、のり部についても有効なのり面処理が施され、上載盛土の流出やこぼれ落ちがない場合に限り、この欄の値を用いてよい。それ以外の場合については、標準値として示された土被り厚としなければならない。